

湿板写真と乾板写真の違い

湿板写真はガラス板が薬液で濡れているうちに撮影処理をしなければならない、暗室で感光材コロジオンを塗布しなければならないなど、不便さが目立ちました。1871年、臭化銀ゼラチン乾板が発明され、乾板を予め作り置きすることで暗室から解放され、写真家の活動範囲や表現の幅が大きく拡大しました。また、高感度の乾板が工業生産として成り立つようになり、新しい産業を生み出しました。



スタジオ用大型カメラ

Studio camera

スタジオ撮影用の大型の乾板カメラです。ピントガラスのサイズは29.5×31cm。繰上台と呼ばれるエレベーター機構のついたスタンドに載せられています。レンズはイギリスのダルメイヤー製で、絞りはレンズ中央部上方からレンズ内に差し込む形式。

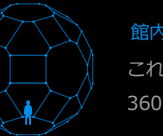
内部のレンズパネル後方にフラップシャッターがついています。

日本製
レンズはイギリス(Dallmeyer)製
明治中期

館内企画展アーカイブ

バーチャル展示室

THE VIRTUAL
EXHIBITION ROOM 360



館内企画展アーカイブ **バーチャル展示室360** > <http://www.tcmit.org/360virtual/>

これまでにトヨタ産業技術記念館で開催した企画展をご紹介します。デジタルアーカイブです。

360度VRコンテンツで、臨場感溢れるバーチャル展示をお楽しみください。



トヨタ産業技術記念館

当サイトに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。

Copyright(C) Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology All rights reserved.